

福祉

心だ



No.16

平成20年1月7日発行

健康と福祉のつどい

主な内容

特別会費	2～4
健康と福祉のつどい	5～8
給食サービス	9
トピックス	10～11
福祉講演会、漫画、寄付御礼	12
あとがき、法律相談	12



ふれあい交流会

■発行/飛騨市社会福祉協議会 〒509-4221 飛騨市古川町若宮二丁目1番66号 古川町総合会館内 TEL (0577) 73-3214
■印刷/有限会社村坂印刷 〒509-4245 飛騨市古川町幸栄町7-30 TEL (0577) 73-3330

※この機関誌は、赤い羽根共同募金の配分により発行しています



飛騨市社会福祉協議会特別会費に多大なるご協力を いただきましてありがとうございました

会員の皆様から、お寄せいただきました会費によりまして社会福祉協議会の事業は運営されています。今後とも社会福祉活動の強化充実を図るため、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

(口数の多い順で一口 五千元。五十音順、敬称略)

十口

- アルプス薬品工業(株)
- 神岡鉱業(株)
- (有) 三和碎石
- (株) 洞口

六口

- (株) 神岡衛生社
- (株) 清水建設
- 田辺製薬吉城工場(株)
- (有) 田舎中自動車
- 西田モータース
- (株) 柳組

五口

- (株) イバティンテリア
- 柏木工(株) 古川工場
- (株) 匠和組

四口

- (有) 天生精機
- (有) アルプス電機
- (株) 喜多村古川工場
- サワ電気(株)
- (株) 清水組
- (業) 高登建設
- 高山信用金庫 神岡営業部
- (株) 田近工務店
- (株) 谷上組

たんぼの湯

- (株) 利興
- ナウエ(株)
- (有) 白洋舎
- 飛騨会計事務所古川事務所
- ひだ生花店

三口

- 坂本土木(株)
- (有) 志田鉄工所
- ためなが
- 日本レヂボン(株) 古川工場

二口

- (株) 相和コンサルタント
- 明石モータース
- (有) 池田不動産
- (有) 井之廣製菓舗
- (有) いわさか
- (業) H・C建設
- 円光寺
- 折長ダンボール(株)
- 加藤土木(株)
- 神岡運輸(株)
- (有) がもう畜産
- (有) 川崎造園
- (株) 北平商店
- 北山ラベス(株) 吉城ファーム
- 喫茶 たった

(有) 木元電気
 桑田製菓舗
 (株) K V K 飛驒古川工場
 (株) 神和
 (有) 小倉鉄工
 (有) コムスエンジニアリング
 (有) 彩美社
 坂上建設(株)
 さか江家
 (有) サニー理容室
 (有) さわ
 (株) 三晃設備工業
 J A ひだ 古川支店
 (有) 清水産業
 (有) 清水自動車整備工場
 (有) シンエイ地所
 神工電気(株)
 (協) 新成建設
 (有) タクマ建築
 (有) 谷辺商店
 田ノ下製菓舗
 長久寺
 藤堂
 (株) 東洋
 ナカヤ商会
 (資) 中山組
 (有) 永山建設
 南城建設協同組合
 (有) 肉のしもはぎ

野七商店
 橋本工業(株)
 橋本工業(株) 古川営業所
 橋本薬局
 飛越電設(株)
 (株) 飛驒防災協会
 (有) 廣田電気設備
 (有) 古川サービス
 (株) 古川石油
 古川電気(株)
 ふるた歯科医院
 本光寺
 (株) ママシヨップうえの
 (株) 丸茂
 水間陶器店
 (株) 宮腰タイヤ
 (有) 森下住設
 八ツ三館
 (株) 柳木材
 (農) 山勇畜産
 吉井腕木(有)
 (株) ヨシキ
 (有) 吉城環境管理センター
 (株) 吉城生コン
 林昌寺
 (有) 渡辺酒造店
 アイテック(有)

(有) アオキ
 青木自動車
 朝日新聞サービスマンカー神岡
 (株) 味処 飛驒古川
 アトリエリーベル
 新家餅店
 あらき(株) ジャンボ古川店
 アルプス自動車(株)
 イグチ建築設計室
 井谷園茶舗
 (有) いたばし生花店
 (有) 伊藤製作所
 (有) 井端カメラ
 イビデン物産(株) 飛驒工場
 岩崎運道具店
 磐佐美容院
 上田産業(有)
 上田食料品店
 牛丸石油(株)
 初月
 (有) ウッドワーク飛驒
 打保郵便局
 (有) エルックきょうしん
 大井林産
 大久保工業(有)
 (有) 太田自動車板金
 (有) 尾賀書店
 岡田屋
 奥田運輸(有)

憶念寺
 起し太鼓の里協会
 オレンジ薬品古川店
 加永建設(株)
 (株) 加藤組
 加納工業(株)
 (有) 蒲酒造場
 (株) 蒲スプリング製作所
 釜上板金加工所
 (株) カマケン
 (株) 神岡イージーエス
 (株) 神岡セラミック
 神岡部品工業(株)
 神岡マインサービス(株)
 神岡林業(協)
 (有) 川勝興業
 観音寺
 季古里
 (有) 北野建設
 北村鍼灸治療院
 北村板金工業
 共栄コンクリート工業(株)
 (有) 共栄建材店
 (有) 倉家サッシ
 (農) 黒内果樹園
 K・T・K工業(株)
 玄昌寺
 (有) 幸栄輸送
 小松シート

- (有) 小水電機
- (名) 斎藤薬局
- 坂上郵便局
- 佐藤建設(資)
- サミ洋装店
- (有) 澤甚
- 三晃製砥(株)
- (有) 重山酒店
- 清水商事(株) 古川営業所
- 清水商事(株) 神岡営業所
- (有) 白川ガラス
- (株) 神栄商事
- 新企画開発(株)スペランツァホテル
- (有) 砂原石材
- (株) 駿河屋古川店
- 西洋膳処まへだ
- (有) 大栄技建
- (株) 大和
- (有) 高原工務店
- 高山米穀協業組合 古川営業所
- (株) 宝タクシー
- (株) 竹林左官工業
- 田中石油バイパスSS
- (株) 田中木工
- (名) 田中屋商店
- タマヤLC企画
- 高山信用金庫 古川支店
- (株) 中部サニター
- (有) 土洞設備工事

- (株) 電腦職人村
- 洞雲寺
- 東洋建設資材(株)
- (有) 時計・宝石・メガネの栄
- (株) 常茂恵
- (株) 富山第一銀行神岡支店
- (有) なかいち
- (有) 中村工務店
- 中屋建築
- (株) 波岡工務店
- (有) ナンキテクニカ
- 西野製材所
- (株)NIPPONコーポレーション神岡出張所
- 日本通運(株) 飛驒支店
- (株) ねっとかわい
- (有) 野末製作所
- (資) 登林酒店
- (有) 野村板金工業
- (株) 橋戸商店
- (有) 橋本商店
- ひさご電材(株)
- 飛驒河合郵便局
- 飛驒信用組合 古川支店
- 飛驒信用組合 西古川支店
- 飛驒市森林組合
- 斐太石油(株) 神岡江馬給油所
- 飛驒生コンクリート(株)
- 飛驒まんが王国
- (有) 平澤自動車

- (株) ファッション美山
- (有) 双葉屋
- 船津官材(協)
- (有) 古川住設管工事
- 古川タクシー(株)
- 古川電装
- (有) 古川ニュース販売
- (有) 古川不動産
- 古川酪農農業協同組合
- 古里精肉店
- ヘアードエステみるく
- (有) 平和商事
- (有) 牧成舎
- 北陸電力(株) 神岡営業所
- 細江印刷所
- 松下電建(株)
- (有) 松本組
- (有) まるじん
- まるみ呉服店
- 道電機
- 宮川下流漁業協同組合
- (株) みやがわ
- 宮前商店
- (有) 宮前精肉店
- (有) 宮前塗装
- (有) 邑上建設
- (有) 村坂印刷
- (有) 森澤産業
- モリリン(株) 古川工場

- 山腰石油
- (有) 山腰楼
- 山崎衣料品店
- (有) 山崎石油
- 山下歯科医院
- (有) 山正自動車
- (有) 山進木工所
- 山田鍼灸マッサージ治療院
- (有) 山本組
- (有) 山本緑地
- (有) 山脇
- (株) ユアソフト
- (有) 結城酒店
- (有) 湯峰畜産
- (社) 吉城経営者協会
- (株) 吉城コンピュータ
- (株) 吉城コンポ
- (有) 吉城屋商会
- (有) 吉田屋食料品店

〇、六〇

- (有) 関屋工務店
- (有) 藤上土建
- (有) 古川ヤナ
- 松本歯科医院



飛騨市健康と

福祉のつどい

11月11日に飛騨市と共催で健康と福祉のつどいが開催されました。式典では、国民健康保険健康家庭の表彰と、飛騨市内の中学校生徒による福祉意見発表とコメディアンの坂上二郎さんによる講演会がありました。坂上二郎さんは、御自分の脳梗塞による体験談を歌とギャグを交えながら話してくださいました。会場では常に笑いが広がり楽しんでおられました。

『福祉の大切さ』

古川中学校三年

松崎 茉鈴

私は今、古川中学校の福祉委員長をしています。なぜ福祉委員長に立候補したかというと、全校のみんなに福祉の良さ、大切なことを知ってもらいたい、一人でも多くの人を幸せにしたい！と思ったからです。私が全校のみんなに福祉を知ってもらいたいには、理由があります。私は今まで、たくさんさんの福祉に関わることをしてきました。

私が自分で体験して、思ったことは福祉というのは本当に良いことだと言うことです。人のために何かをしたとき、自分も良い気持ちになれるし、何より相手の人に喜んでもら

うことができるからです。

私は、こういう体験をし、初めて福祉の良さを知りました。だから一人でも多くの人が福祉に関わることでできる場を作って、みんなに福祉の良さを自分で感じて欲しいと思いました。そのために、私ができることは何でもしていきたくらいと思っただけです。

私が今までに、どんな福祉活動をしてきたか、そこから何を学んだか、お話ししたいと思います。

まず、お手紙ボランティアでは、人との関係の大切さを学びました。お手紙ボランティアというのは、毎年、古川中で行われていて、一人暮らしや施設のお年寄りの方に、暑中見舞いや、年賀状を出すものです。このお手紙ボランティアは、毎年、多くの人に喜んでもらっています。私は、お手紙ボランティアで一人のお年寄りの方と接しました。始めは、どうすれば喜んでもらえるかなあとか、何て書こうかなあなど、すごく悩んで書きました。悩んだ末に私は、ソフトボール部に所属し、夏の最後の大会に向けて頑張っていることを書いたり、内容になってしまいましたが、そんな手紙にも、お年寄りの方は喜んで下さり、返事をいただきました。

『暑中見舞いありがとう。嬉しかったです。大会、頑張ってたね！』という励ましの言葉をもらい、葉書を送ったことを喜んで下さいました。私は、お手紙ボランティアをやった、とてもよかったです。給食サービスでは、自分が頑張ったことで人に喜んでもらえる喜びを感じることができました。給食サー

ビスとは、お年寄りの方にお弁当を作ってあげて、それを家まで届けたことです。弁当は、作り方を



教えて下さる方がみえて、私たちが一から作ります。お年寄りの方の健康などにもしつかり気を遣って、パランスの取れたメニューで作りました。心をこめて作ったお弁当は、とてもおいしそうで、お年寄りの方に届けるのが楽しみでした。そして、実際に届けてみるとお年寄りの方は、凄く喜んで下さいました。

その時の笑顔は今でも忘れません。私は、この時、初めて、自分たちの頑張りで、人を幸せにできたという喜びを感じました。機会があったら、また給食サービスに参加したいです。

また、古川祭りの清掃ボランティアでは、町をきれいにすることの大切さを学びました。普段、私たちが

お世話になってる町をきれいにすることはとても大切なことです。私は、古川が大好きです。古川祭りには、たくさんの方々がみえます。その方々に、良い気持ちで祭りを楽しんでもらいたい、『古川っていい所だなあ。』と感じてもらえたら嬉しいです。そのために清掃ボランティアを進んで行い、少しでも古川の町をきれいにできて良かったです。

私は、今までにユニセフなどの募金活動があれば、必ず行ってきました。私は、福祉委員長になって、何よりもユニセフ募金に力を入れていきたいと思えました。今、世界では生きるために必要な物がなく、苦しみ、亡くなっている人達がたくさん居ます。私たちが今、こうしている時間にも、大切な命が失われています。食べる物がなく苦しんでいる人や、病気で苦しんでいる人もいます。私達は、毎日、普通に生活し、その普通が当たり前になっていて、『普通』というものが、どれだけ幸せなことか、忘れていると思えます。

私たちのこの普通という幸せを、苦しんでいる人たちに分けてあげることは、私たちにできることです。一人でも多くの人が、苦しんでいる人のために募金をしてくれたら嬉しいです。そして、人に喜んでもらえたらという喜びをみんなに感じて欲しいです。

私たち人間は、一人で生きているわけではありません。必ず誰かのお世話になります。また、誰かを支えて生きています。どんなにささやかなことでも、人のために行動することで、自分にも喜びや幸せが生まれます。

私は福祉委員長として、全校のみんなに福祉の良さ、大切さを知ってもらえるよう、いろいろな活動を計画し、たくさん呼びかけをして、古川中学校に福祉の輪が広がって、生徒一人ひとりが福祉を知り、優しい心を持った人間になるように、全力で頑張りたいと思います。」

『優しさを形にする大切さ』

神岡中学校三年

小坂 友佳

人に優しくするって、どんなことだろう。どうやって優しくすればいいんだろ。前から思っていたことですが、最近はこのことをよく考えるようになりました。このようにすることを考えるようになったきっかけは、先生にワークキャンプへの参加を勧められ、それに参加したことです。

その話を聞いた時、正直、私はあまり乗り気ではありませんでした。『今年の夏休みは部活がなくて暇だし、先生もああって下さるから参加してみようか。』という軽い気持ちで参加することを決めました。

旭が丘デイサービスセンターに行き、一番私が驚いたのは、職員の方々の元気さ、明るさです。お年寄りの方々に、笑顔を絶やさず、積極的に話しかけてみえる姿がすごいと思いました。それと同時に、なぜあんなに積極的に話しかけることができるのだろうかという疑問に思いました。口べたで消極的な私には、なぜあのように話しかけられるのが、とても不

思議でした。

そんな思いで職員の方々を見てみると、私はあることに気づきました。話をしていて職員の方とお年寄り、とても楽しく笑っているのです。観ている私も、嬉しい気持ちになりました。なぜ、あのように話せるのか、私の疑問は、ますます深まりました。

昼休みが終わり、先生にその事を尋ねると、先生はこんなことを教えて下さいました。「職員の方々と、の昼食の時、話題になつたんやけど、職員の方々は、明るい話し方や表情をするように心がけているんだって。明るく接することで、通つていらいっしょなお年寄りの皆さんにも安心して過ごしていただけるし、また、デイサービスを利用しようという気持ちを持つて預けるんだって。」

私は、はっとしました。私は、シヤンプー後の整髪や食事の配膳の時、仕事をするのに気を取られ、お年寄りに笑顔で接することや、話しかけることを忘れてしまっていたのです。お年寄りの方のお話に、相づちを打つことが精一杯だったのです。私が知らず知らずのうちにこんな態度で接してしまつたことで、もしかしたらお年寄りの皆さんに嫌な思いをさせてしまつたかもしれない、と後悔しました。

これがきっかけになり、私と職員の方々の違いは何なのかと考えるようになりました。私には、優しい気持ちでお年寄りの皆さんに接したいという気持ちが充分あります。お年寄りの皆さんの嬉しいような顔が見たいからです。でも、こんなことを言つたら不快な思いをさせてしまうのでは

ないかという思いが先立ち、素直に自分の気持ちを出せないでいたのです。

せっかく、お年寄りに優しくしたいという気持ちを持っていても、その気持ちを相手に伝え、分かってもらえなければ意味がありません。職員の方々は、優しくしたいという気持ちを、きちんと態度や行動で示そうすることでお年寄りを安心さ



せることを心がけてみえました。その姿を尊敬し、見習うことが大切なのだと思います。

私は今、祖母と一緒に暮らしています。私がかつたに祖母の肩や足をもんでやると、「ああ、楽やなあ。ありがたう。」と嬉しそうに言ってくれます。それを聞くと、私も嬉しくなります。

以前、私は、階段を辛そうに登つ

ているお年寄りの方に、「背中、押しましようか。」と声をかけたことがあります。でも、その時の私は、お年寄りの方に優しくしたいという気持ちではなく、自分はお年寄りの方に親切にして何ていいやつなんだという自己満足や優越感に浸りたいという気持ちで声をかけていたように思います。しかし、職員の方々は、今の私が祖母に接しているように、デイサービスに通つてみえるお年寄りの皆さんに接しているのだと思います。そして、相手を幸せにすることが、職員の方々の幸せなのだと思います。

こう考えると、本当の優しさというの、自己満足のために声をかけて接するのではなく、自分の身内と同じように接することなのかもしれない。何故なら、自分の身内だったら、こんなことをすると嫌がるかもしれないなどということは、いちいち考えないからです。そして、相手が喜んでくれること、このことこそが、自分の喜びになるのです。私も職員の方々のように、お年寄りの皆さんを自分の祖母のように思つて、素直に優しくしたいという気持ちを伝えることができるようになったら、もっとこのボランティアを楽しみたいと思つたと思います。もし、また機会があったら、ワークキャンプに参加したいと思つています。

私は、自分の気持ちを口に出すことが苦手です。また、自分から行動するのも苦手です。しかし、相手には、やはり言葉と行動、そして表情しかありません。「あなたのことを

大切にしていますよ。」という気持ちで、言葉や態度でしっかりと伝えなくてはならないのです。そのことを、とても強く感じました。

今、「思いやりのある社会づくり」がいろいろなところで実践されています。私は、自分の経験を通して、思いやりのある社会の根底にあるのは、「優しい気持ちを形に表すこと」だとわかりました。そして、その本当の優しさとは、相手を身内と同じように大切に思うことだと気づきました。口だけで、「思いやりのある社会づくり」と言うだけでなく、本当の優しさを一人一人が前面に出していかなければならないのです。

これから私がしていきたいことは、自分の優しい気持ちをしっかりと相手に伝えることです。相手の喜んでくれることを考え、恥ずかしがらずに態度や行動に表していきたいです。

私は、誰でも困っていたら声をかけて、少しでも助けられる人になりたいです。明るい声と表情を心がけ、相手を喜ばせたり、幸せにすることができる人になりたいです。そして、自分自身も、嬉しい幸せな気持ちになりたいです。

夏休みに、「旭ヶ丘デイサービスセンター」で、お年寄りの皆さんと過ごしたことは、ずっと忘れません。この体験は、私に沢山のことを学ばせてくれました。福祉がとて身近なものであることを、職員の方やお年寄りの皆さんが教えていただきました。本当にありがとうございます。職員の皆さんは、お年寄りの皆さんに幸せを配り、皆さんも幸せになって下さい。

私も、これから沢山の友達に優しさを配れる人になれるよう頑張ります。「優しさを形にして伝える」ことの大切さを、ずっと忘れずに生活していきたいと思っています。

『お年寄りの方々とふれあって』

河合中学校三年
竹田 緑沙

私は、今年の夏休みに福祉のワークキャンプに参加しました。ワークキャンプは二日間あり、一日目には高齢者体験をしました。その体験では、ゴーグルやおもりの入ったベストを着け、手袋をはめたりして、階段を上がったり文字を読んだり書いたりしました。私は自分の前の人がやっているのを見た時に、「そんな風になるわけじゃないじゃん。」と思っていました。しかし、自分の番になって動いてみると、自分が予想していたこととは全く違いました。体は重く、手足はうまく曲げられず、目はぼやけて見えない。手袋を着けているせいで、指は動かしにくく、鉛筆を持つのがやっとでした。動きにくい分、体も疲れやすくて体の節々も痛くなりました。階段ではすぐに息が上がって、休み休みでしか動かせませんでした。私はその時、自分の考えが甘かったと思いました。そして、普段、お年寄りの人たちは、こんな状態で生活しているんだと、とても驚きました。そして、家のばあちゃんもこんなに動きにくい状態で、毎日畑仕事をしているんだと思い、大変さを知りました。私は今までに、

こんな体験をしたことがなかったのですね。お年寄りの方の大変さがわかりませんでした。しかし、この体験を通してよくわかりました。

一日目の体験では、車いす体験もありました。自分も実際に乗ったりしました。とても怖かったです。坂道では、進む先が自分に見えていないことへの恐怖心でいっぱいでした。でこぼこ道やちよつとした段差では、「こんなにちよつとしたところなのに・・・。」と思うほど怖かったです。普段、自分は簡単に歩けるところだし、怖いと思ったことなんて一度もなかったのですね。とても驚きました。そして、今の自分が「簡単だ」とか「当たり前」と思うことは、お年寄りの人にとっては、簡単ではなかったり大変なことだったりするんだということを実感しました。これからは、この体験で学んだことを生かし、お年寄りのことを考えながら自分も動いていきたいです。そして、その大変さを分かった上で接していきたいと思っています。

二日目には、デイサービスセンターへ行きました。この日には、実際にお年寄りの人とふれあう体験をしました。そこでは普段はできない貴重な体験をたくさんしました。私は初めにたくさんのお年寄りの方々と話しをしました。私は、今までに職場体験などでいろいろな介護施設へ行ったことがありました。なので、自分でも話すことは大丈夫だと思っていました。しかし、そう簡単なことではありませんでした。恥ずかしくて何を話したらいいかわかりませんでした。普通に話ししてもお年寄りの人にとっては声が小さいため

に、声が届いていませんでした。けれど、センターの職員の方にアドバイスをいただいたり、自分でも思いきってやってみたら、たくさん話すことができました。とても嬉しかったです。それから、たくさん会話ができ、恥ずかしさもなくなってきました。

そのほかの体験では、お年寄りの方の髪の毛を乾かしてあげました。その時「乾かすときは手の上に風を当てて、ドライヤーもできるだけ離して乾かす」と教えていただきました。それは、お年寄りの方によって熱すぎたりするからだそうです。私は普段、自分がやるときは少しも気にせずやっているもので、そういう心配りには全く気づきませんでした。こういうことはすごく大事な事だと思いました。

この体験を通して、心配り、気配り、そして「気づく」ことの大切さを知りました。そして、その気づきを大切にして、思ったことやわかかったことを実行していかなければいけないと思えました。これから生きていく上で、このことを大切にしていきたいです。そして、家のおばあちゃんだけでなく、お年寄りの方を大切に、たくさんのお年寄りの方と関わっていききたいです。私は、また、ワークキャンプや福祉の行事に参加していきたいと思っています。

『笑顔を生み出すボランティア』

宮川中学校三年

岡田 芽依

最初は、ボランティアって、どう

いう事をすればいいのか、よくわかりません。だから、とても難しい事なんだと思いきや、たまたま。だけど、この夏、私のそんな気持ちを変えようとした。

今年、私は子供会の会長になりました。そこで初めて分かった事があります。子供会ではいろんな行事があるのだけれど、例年通りに活動を進めれば、夏は行事が無いのです。

せっかく長い休みの夏なんだから何かみんなで思い出を作りたいと思いい、「花火&肝だめし大会」を提案しました。でも、私の地区では広くて花火のできそうな場所といたたら、「しましまハウス」(老人介護施設)の前のグラウンドしかありません。夜だし騒ぐので迷惑かと思いましたが、使わせていただけないかと電話をしました。すると快く承諾して下さいました。

せっかく、「しましまハウス」の前です。だから、お年寄りの方々にも参加して頂く事を決めました。

そして当日、「しましまハウス」の皆さんが花火を見るために外に出て来て下さいました。子供会での花火ですから、小さな打ち上げ花火と手持ち花火だけです。それでもお年寄りの皆さんと交流しながら花火をする、なんだか楽しかったです。手持ち花火と一緒にやって頂きました。すると「花火をするなんて何十年ぶりかなあ。」「きれいやなあ。」など口々に話されました。そして、皆さん楽しんで下さっていたので、私も、うれしくなり本当にやって良かったと思えました。こんな感じで花火大会は成功のもとに終わりました。

その日から何日か経って、ふとあの花火大会はボランティアと言えろのだからかと思いい、母にその事を聞いてみると「そうなんじゃない。」と一言。私にとってそれは意外な答えでした。自分もとても楽しんだのに、むしろお年寄りの皆さんが参加して下さったから倍楽しかったのに。でも、その時、初めてボランティアの本当の意味が分かったような気がしました。

この夏、花火大会を通してボランティアの事で気づいたことが三つあります。一つめは、ボランティアをしてあげるといふ気持ちを持つてはいけないということです。その気持ちを持って、相手は逆に嫌な気分になつてしまいません。そうならば、それはもうボランティアではありません。二つ目はいいややではなく楽しんでやる事です。自分が楽しめば相手もうれしいと感じてくれると思います。必ず気持ちは伝わります。三つ目はボランティアには、何の報酬もないと言いますが、そんな事はありませぬ。ボランティアの報酬は「笑顔」です。

人の笑顔は、自分をも嬉しくさせる何ものにも代えられない報酬です。ボランティアは難しいと思うかもしれませんが、でも、そこまで難しく考える必要はありません。少しの勇気と温かさがあれば大丈夫。

自分も楽しんで、みんなが笑顔になれる、そんなボランティアをみんなでたくさんやりたいなと思つていきます。

福祉標語

おはようの一言で 一人ぼっちはもういない

山之村小学校四年 石橋 匠

「ありがとう」その言葉だけで がんばれる

神岡小学校五年 青山 終

だれとでも 笑顔でいつも こんにちは

古川西小学校五年 福澤 恵梨奈

みんなのやさしさで 住みよい町への第1歩

河合小学校五年 清水 一誠

おばあちゃんの ざらざらした手が あたたかい

古川小学校五年 圓山 悠佳

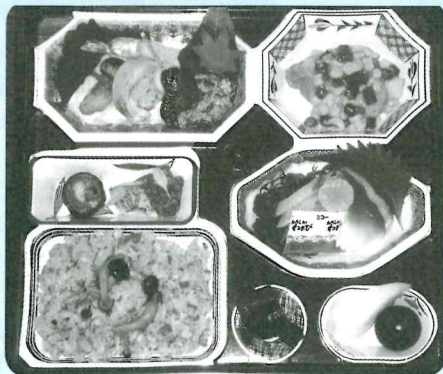
「てっただいましょうか。」その一言が 思いやり

宮川小学校五年 井戸 健登

給食サービス

古川地区給食サービス

去る10月5日、11月28日には、あいの会（青木 孝子会長）、10月6日には、栄養士会（布施 澄子会長）、10月17日には、南吉城調理師会（山腰 春雄会長）、11月28日には、くちなしの会（岡部 せつ子会長）による給食サービスが行われました。いずれも、配達は、配食ボランティアのランチボックス（新井 学会長）の皆さんに配達して頂きました。10月10日には、古川町朝霧連合会（小野 俊雄会長）による給食サービスが行われ、配達も、会員の皆さんにして頂きました。



また、11月17日には、くちなしの会と吉城高校生徒3名により、お弁当を調理して頂き、できたお弁当を、ランチボックスの皆さんと配達に行ってきました。参加された生徒は、「今回で2回目の参加ですが、それぞれの会員の皆さんの心配りに毎回驚きます」と話しておられました。

また、12月15日には、くちなしの会と古川中学校生徒8名、吉城高校生徒3名により、お弁当を調理して頂き、できたお弁当を、ランチボックスの皆さんと配達に行ってきました。

河合地区給食サービス

10月10日 11月7日 12月26日に河合町福寿草の会（下堂前ハナエ会長）による給食サービスが行われました。いつも季節の食材を使った、色とりどりのお弁当が作られています。11月7日には、お弁当と一緒に、河合保育園の子どもたちが書いた「書」をお届けしました。この作品は毎年、園児が書いてくれています。元気で、味のある「書」に、受け取られた方は、顔をほころばせて、喜んでいらっしゃいました。また、12月26日には、年末ということで、クリスマスとお正月にちなんだお弁当でした。ケーキや黒豆・栗きんとんなどの献立で、一足先にお正月の気分を味わってです。このお弁当は、河合地区の民生委員児童委員の方々に配達していただいております。



宮川地区給食サービス

10月16日、11月13日、12月18日に、宮川あじさいの会（野村志賀子会長）による給食サービスが行われました。10月16日は、「きのこの炊き込みごはん」や「さんまのしそ巻き揚げ」「かぼちゃの煮物」等、11月13日は、「栗おこわ」や「とり肉とさや豆の蒸し煮」「味噌おでん」等、12月18日は「ちらし寿司」「鶏の手羽肉のやわらか煮」「筑前煮」等のメニューでした。メニューは、毎回会員で相談して決めています。少しでも利用者のみなさんに喜んでいただけるように、なるべく旬のものを使い、毎月変化があるように気を配り、今まで作ったことがないメニューについては、事前に試作して研究しています。

出来あがったお弁当は、宮川地区の民生委員等の方々に、利用者宅へ配達されています。





トピックス



在宅介護者のつどい

10月26日に「在宅介護者のつどい」が実施されました。これは、日ごろ在宅で家族を介護されている方を対象に同じ苦勞をされている方同士で交流する場として企画しています。

今回は、恵那市方面へ行き、石の博物館の見学と明智鉄道ヘルシー寒天列車へ乗車しました。石の博物館では珍しい石やピラミッドの探検、寒天列車では、低カロリー寒天料理に舌鼓を打ちました。あいにくの雨でしたが皆さんお互いに同じ悩みを持つ同士打ち解けられた様子でした。



点字教室

10月1日には、古川小学校4年生を対象に、12月19日には、古川西小学校4年生を対象に点字教室を行いました。講師に、小林 福一さんをお迎えし、小林さんが目が見えなくなった原因、身の回りをする事、外出をすること、本やテレビを見ることはどうしているのか？についてのお話を聞きました。児童たちからは、「小林さんは、目が見えなくても、自分たちと変わらない生活をしているから、ビックリした」「小林さんに、点字のお手紙を打って読んでもらおう」と話していました。

最後に、児童たちから、歌のプレゼントをされ、小林さんも喜んでおられました。

その後も、児童たちから、小林さんに、点字のお手紙を送ったり、小林さんから返事を頂いたりと交流をしているようです。



ふれあい交流会

10月12日、飛騨市文化交流センターにおいて、一人暮らしの方38名の方が参加され、「ふれあい交流会」を開催しました。



昨年に引き続き、「千原弘樹一座」による歌謡・舞踏ショーを觀賞していただいたり、飛騨市役所職員 清水 貢さんによるマジックショーを楽しんで頂きました。

昼食は、くちなしの会(岡部 せつ子会長)の皆さんに、赤飯、鮎の塩焼き、かぼちゃの茶巾絞りなどを調理して頂き、一緒に会食をしました。

また昼食後は、自慢ののどを披露していただいたり、千原弘樹さんとデュエットなどをしたりとわずかな時間でしたが、楽しい一日を過ごされました。

神岡中学校シニア体験

12月5日にたんぼぼ苑の職員と神岡中学校母親委員会と共同で神岡中学校でシニア体験を行いました。これは、神岡中学校1年生を対象に福祉に関心を持ってもらおうと実施されたもので、85名の生徒が参加しました。全生徒が車椅子の乗車体験と高齢者疑似体験を行い、高齢者や障がい者の日常生活上の困難さを体験し、「普通の動作が高齢者にとっては大変だとは思わなかった」「これからは、もっと気遣う気持ちを持ちたい」と話していました。



防火点検

古川・河合地区

古川、河合地区において、11月8日、一人暮らしのお年寄り27世帯を対象に、飛騨市消防本部の方々にご協力を頂き防火点検を実施しました。冬季を迎えるにあたり、ストーブ、灯油タンク周辺の点検、ガスコンロの周りの点検、消火器の期限の確認などをして頂きました。点検を受けられた方は、「一人で暮らしていて、火のことが一番心配なので、消防署の方に点検をしていただき安心しました」と話しておられました。



神岡地区

神岡地区では、11月15日に防火点検を実施しました。これは、飛騨市消防本部、北陸電力、北吉城ガス組合、担当地区の民生委員の皆さんのご協力をいただき、一人暮らしのお年寄りの方21世帯を対象として実施しました。暖房機器を利用したりと火災の原因が増加する季節を迎え、ストーブ、ガスコンロ、配電盤、消火器の使用期限等確認していただきました。普段暮らしていると気づかない危険箇所が発見でき、点検を受けられた方はほっとしておられました。



レクリエーション講座

11月29日、ハートピア古川において、レクリエーション講座を開催しました。講師には、榎本英樹先生をお迎えし、レクリエーションを中心に研修して頂きました。

参加された方は、地域におけるサロン活動などのリーダーとして活躍していただいております方、施設での傾聴ボランティアをしていただいている方が中心でしたが、「今後の活動の中で、認知症予防につながるレクリエーションをたくさん教えて頂き、楽しかった」と話しておられました。



街頭募金にご協力ありがとうございました。

11月4日(日)河合町文化祭において、河合地区民生児童委員による街頭募金が実施され、多くの方にご協力いただきました。

また、12月9日～14日にかけて古川地区6ヶ所(文化交流センター、駿河屋古川店、ママショップうえの、JA古川、杉崎、信包各支店)において古川地区民生児童委員と宮川地区民生児童委員による歳末助け合い街頭募金を実施されました。

そして、12月10日と11日にパロー神岡店、Aコープたかはら、コメリ神岡店において、神岡地区民生児童委員による歳末助け合い街頭募金を実施されました。大変多くの方にご協力いただきありがとうございました。



匠さん日記 かみゆますこじ



福祉講演会

小・中学校

10月29日、河合小学校、30日には、古川小学校全児童を対象に福祉講演会を行いました。講師には、榎本 英樹先生をお迎えし「仲間づくり」と題し、講演していただきました。レクリエーションをはさみながら、やさしさについて話して頂きました。



また、11月29日、神岡中学校1年生を対象に、12月6日には、宮川小学校全児童を対象に福祉講演会を行いました。講師には、杉原 信太郎先生をお迎えし「もっと普通でいいんだよ」と題し、講演していただきました。杉原さんは、19歳という若さで事故にあい身体障がい者となりましたが、障がい者の事を少しでも多くの方に理解してほしいという思いから各学校での講演をされておられます。

中には、障がい者の方と身近で接するのは初めてという児童・生徒もおり、戸惑いもあったようですが、杉原さんのお話を聞いて、「僕たち、私たちと一緒になんだ」と感じたようです。

なかよしキッズ福祉講演会

11月30日、神岡東生涯学習館内日中一時支援「なかよしキッズ」にて、利用されるお子さんと保護者及び職員を対象に障害児のレクリエーション講座を開催しました。講師には、榎本 英樹先生をお迎えし、障がいを持つ児童との関わり方を実際に児童達とのレクリエーションを通して学びました。子ども達は日頃出会う人との関わりに戸惑いをもっていました。先生の障がい児へ配慮した関わり方によってみんなで楽しくレクリエーションを楽しんでいました。保護者の皆さんは「勉強になった、家庭での参考になりました」と話されていました。

編集後記



新年明けましておめでとうございます。
冬の到来で、除雪の不安が付まとう季節になりましたが、今シーズンの降雪量が心配です。今年豪雪になるという情報も聞かれ、平成十八年の豪雪の惨状を危惧しております。
平成二十年を迎え、新しい気

持ちでスタートした飛騨市社会福祉協議会ですが、三月までには、地域福祉活動計画も完成予定で、地域福祉活動の再確認に重点を置いた活動を行政と共に進めて行ければと考えております。今後とも社会福祉協議会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

寄付

ご寄付いただきありがとうございます。

- ◎ 篠手芸サークル様 (古川町) 一五、一〇〇円
- ◎ 上野 歳貴様 (古川町) 一〇〇、〇〇〇円
- ◎ 大坪 外喜夫様 (神岡町) 五〇、〇〇〇円
- ◎ 古川町商工会青年部様 (古川町) 一三、六五〇円
- ◎ 坂下 晃一様 (古川町) 一〇〇、〇〇〇円
- ◎ 二十三区上気多文化祭チャリティ様 (古川町) 一、二一、〇〇〇円
- ◎ 革工芸同好会からくさ 代表 小瀬 啓子様 (神岡町) 二〇、〇〇〇円
- ◎ 瑞岸寺益世会 長谷川 憲子様 (神岡町) 八五、四五二円
- ◎ 野村 保穂様 (古川町) 二〇〇、〇〇〇円
- ◎ 川上 恵美子様 (古川町) 二〇〇、〇〇〇円
- ◎ 島田 久夫様 (神岡町) 二〇〇、〇〇〇円